

令和8年度 第1回花見川区支え合いのまち推進協議会議事要旨

日 時 令和8年7月10日(金) 午後2時～午後3時45分

場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数 24人

欠席委員数 4人

傍聴人 0人

事務局 9人

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 区長挨拶
- 4 会議の公開について
- 5 報告事項
令和7年度花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況の提出について
- 6 議題
令和8年度花見川区支え合いのまち推進計画の活動計画について
- 7 その他
花見川区生活支援コーディネーター活動報告
- 8 閉会

【2】議事要旨

委員定数28名のうち、4名の欠席を確認し開会した。

金子委員長、足立区長挨拶後、事務局より、新たに就任された委員の紹介を行った。花見川区町内自治会連絡協議会から亀井徹委員、社会福祉協議会部会長の退任に伴い、花園地区部会、加納哲夫委員、花見川区第2地区部会、坂本勝委員、さつきが丘・宮野木地区部会、本杉みゆき委員が就任したことを報告した。

会議の公開について説明があり、傍聴人の入室、会議録の作成、ホームページ及び推進協だより等への掲載のため、写真撮影、録音を行うことについて、また自治会等を通じ地域住民や公共の場に公開させていただく旨、了承を得た。(今回傍聴人0名。)

報告事項

花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況(令和7年度)の実績報告の提出について
千葉市社会福祉協議会花見川区事務所(吉田所長)から「資料1 花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況(令和7年度)総括表」及び、「資料2 花見川区支え合いのまち推進計画推進状況(令和7年度)個票」について説明があった。

令和8年3月9日に開催した令和7年度第3回花見川区支え合いのまち推進計画推進協議会で審議した内容に基づき、地域福祉課より示された報告用の様式に取りまとめたものである。この書類は千葉市社会福祉審議会地域福祉専門部会で報告される予定である。この内容で地域福祉課に提出する旨、了承を得た。

議題

「第5期花見川区支え合いのまち推進計画の進捗状況(令和8年度)実績報告について」

以後の議事進行は鈴木副委員長により行われた。

①検見川地区部会から⑫畑までの各地区部会について、資料3に基づき、社会福祉協議会花見川事務所 吉田所長より報告があった。

<検見川地区部会>

- ・要支援者への生活支援アンケート結果を踏まえ、地域での支援体制構築に向けた具体的な取組を進める。
- ・小学生を対象とした新たな事業を計画し、地域活動への関心を高める取組を実施予定。

<花園地区部会>

- ・「花園おせっかい」の活動を再開・充実するとともに、敬老会の再開を予定。
- ・避難所運営委員会や自主防災会と連携し、避難所訓練への参加や災害時支援体制の強化を進める。

<朝日ヶ丘地区部会>

- ・ふれあい食事サービスや健康体操、歌声喫茶など交流・介護予防事業の充実を図る。
- ・令和9年度の地区部会創立30周年記念事業の準備を進める。
- ・地域福祉情報の発信については継続して実施する。

<犢橋地区部会>

- ・中断していた事業が再開され、安定的な実施を図るとともに、第6期計画に向けた検討を進める。

<こてはし台中学校区地区部会>

- ・見守り対象者の把握・見直しを継続するとともに、要支援者の生活ニーズを把握し、可能な支援を実施する。

<幕張・武石地区部会>

- ・居場所づくり及び地域支援体制構築について、前年度までの取組を継続して実施する。

<花見川地区部会>

- ・ふれあい事業は参加者の高齢化や自治会活動の縮小を踏まえ、年度目標を見直す。
- ・地域ケア会議を対象17自治会すべてで開催する予定。
- ・災害に関する講座を昨年度に引き続き実施することを計画。

<花見川第2地区部会>

- ・地域支援体制構築、人材発掘・育成、学習・体験の場の創出について、前年度までの取組を継続して実施する。

<こてはし台地区部会>

- ・居場所づくり及び地域福祉情報の発信は計画どおり実施する。
- ・地域運営委員会に参画し、連携事業について実施に向けた協議を進める。
- ・地域ケア会議で抽出した課題の解決策について検討する。

<天戸中学校区地区部会>

- ・居場所づくり及び地域支援体制構築は前年度同様に計画的に実施する。
- ・地域運営委員会に参画し、連携を強化し、広報紙以外の情報発信手法についても検討する。

<さつきが丘・宮野木台地区部会>

- ・交流の場づくり及び地域支援体制構築について、前年度からの取組を継続して実施する。

<畑地区部会>

- ・畑町ガーデンの送迎車を活用した買物支援事業について、前年度に引き続き定期運行を実施する。

あんしんケアセンターこてはし台、あんしんケアセンターにれの木台の順で、資料4に基づき報告。

<あんしんケアセンターこてはし台>

- ・当センターは平成24年10月から市の委託を受けて運営しており、担当地区の高齢化率は37.3%となっている。
- ・重点的な取組として、令和4年度から段階的に地域ケア会議を実施している。
- ・地域ケア会議には、自治会、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、障害者基幹相談支援センター生活自立・仕事相談センターなどの関係機関が参加している。
- ・会議を通じて関係機関との連携を強化するとともに、地域で支援を必要とする方の情報共有や支援方針の検討を行い、早期支援や積極的なアウトリーチにつなげている。あわせて、地域特性や実情を踏まえたニーズの把握と地域づくりに取り組んでいる。
- ・今後も地域ケア会議を継続し、関係機関との連携強化と地域支援の充実を図っていく。

<あんしんケアセンターにれの木台>

- ・昨年度に運営法人が変更となり、今年度は2年目の活動となる。昨年度は地域の実情把握を中心に取り組み、今年度は重点課題への対応を進めている。
- ・にれの木台圏域は人口約16,700人、高齢者人口約6,000人、高齢化率35.85%であり、花見川区6圏域の中で2番目に高い。要介護認定者は約1,100人で、高齢者の約18.3%を占めている。
- ・今年度の重点取組として、坂道や階段が多く、エレベーターのない団地が多い地域特性を踏まえ、

高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう支援を推進する。専門職と連携し、坂道・階段の安全な歩き方講座を開催するとともに、地域資源を活かした「歩きたくなるまちづくり」を目指し、散策マップの作成を検討している。

- ・相談体制の充実に向け、相談件数に地域差が見られたことから、昨年度に実施した団地での出張相談に加え、今年度はコミュニティセンターで開催されるサロンにおいても出張相談を実施している。民生委員、地区部会、関係機関との連携を強化するとともに、イベントや研修等を通じてあんしんケアセンター事業の周知を推進していく。

今後は、これらの取組を通じて新たな地域課題を把握し、関係機関と課題解決を協議する地域ケア会議の開催・充実につなげていく方針である。

【意見交換】

さつきが丘・宮野木地区部会
本杉委員
新しく委員になり、初めて出席しました。資料を読ませていただき、各地区部会が取り組みを実施するなかで、ボランティアを募ること、担い手について同じ悩みを持っているということを感じました。

天戸中学校区地区部会
犬田委員
地域活動はボランティアで成り立っているため、どのような人材を集めるかが重要です。
地区部会長の役割は、単に運営するだけではなく、人に積極的に働きかけるリーダーになることだと思います。私は自分から多くの人に声をかけるのは得意ではありませんので、地域で人望があり、多くの人に声をかけられる方に協力をお願いしています。その方を通じて参加者を集めてもらえるので、とても助かっています。地域活動は、人と人とのつながりが中心です。人間関係をどう築くかが重要だと思います。

一方で、地区部会では後継者探しが大きな課題です。現在、活動している役員は 70 代、80 代が中心です。40 代、50 代は町内会の役員は務めても、任期が終われば離れてしまうことが多く、地域活動へ積極的に関わる人は少ないと感じています。新しい取組を提案しても、「負担が増えるのは嫌だ」「頼まれたことだけはやるが、それ以上はやらない」という反応が多く、活動の広がりにつながりにくい状況です。

そのため、主体的に活動してくれる人材を発掘することが最も難しい課題だと感じています。積極的に人を巻き込める人が地域には必要です。そうした人を中心に活動を広げ、若い世代や次につながるボランティアをどう見つけていくかが重要であり、その方法について、この会議で議論できればと思っています。

鈴木副委員長
地区部会の児童母子福祉委員会では、子育てサロンや赤ちゃんを対象とした活動を、もう 19 年続けています。
その頃に参加していた若いお母さんたちが、今では保護者会の会長を務めるなど、「あのとき楽しかった」という思いから、現在は担い手として活動してくれています。
ただ、若い世代は忙しいので、それぞれが無理なく、できるときに、できることをやって、「楽しかったな」「また来年も」と感じてもらうことに意義があり、町で会ったら挨拶をかわせるような関係づくりが大切だと思っています。
また、町で行っている挨拶運動などを通して挨拶を交わし、いろいろな人とつながることも大切ではないかと思っています。

畑地区部会
清水委員
人材についてですが、先ほども話があったように、まずは情報を発信することが大切だと思います。得て不得手があって計画することが得意の方もいるし、人を集めることが得意な方も、地域に必ずいると思います。地区部会長だけでなく、自治会長など地域のリーダーになった方は、常にアンテナを高くして、「地域に

どのような人がいるのか」を見極め、適材適所でお願いできる人を見つけていくことが大切だと考えています。

私も地区部会長を務めています、自分一人でいろいろなことを動かそうとはしていません。「あれをやりたい」「これをやりたい」という声があれば、「それなら一緒にやりましょう」と声をかけ、その人と一緒に進めるようにしています。先ほどから「人材確保が大変だ」という話が出ていますが、私は実はあまりそう感じたことはありません。いろいろな活動をしていると、それぞれの人が自分にできることを担ってくれるからです。「私はこれができます」という形で協力してもらえているので、人集めにそれほど苦労したことはありません。

ただ、現在、地区部会で一番課題だと感じているのは、活動している方々の高齢化です。今後は、若い方に地区部会の役員になってもらうことだけではなく、中学生や高校生などの若い世代に地域行事や地区部会の活動へ参加してもらうにはどうすればよいかということを、昨年あたりから課題として考えています。

その点について、今後何とか取り組んでいければと考えています。

その他

「花見川区生活支援コーディネーター活動報告」

第1層生活支援コーディネーター川邊ＳＣより資料４・資料５に基づき説明があった。

各あんしんケアセンターから５名の第２層生活支援コーディネーターが出席し、川邊ＳＣから紹介された。

前半は生活支援コーディネーターの役割、活動について、後半は活動事例集の中から、好事例２例の紹介がされた。

(閉会)

金子委員長が閉会挨拶し、午後３時４５分、花見川区支え合いのまち推進協議会を閉会した。